

天声人語

東大が嫌い。成績が一番のや
つが徹底的に嫌い。哲学者鶴見
俊輔さんの信条だ。父は東大出
の政治家で、一番に執着した。

鶴見さんの見るところ、一番の
人間は状況次第で考えをころこ
ろ変えて恥とも思わない▼二番は認める
というところが面白い。二番になった人
間は努力すれば一番になれるのに、「そ
この追い込みをしないとところに器量があ
り、遊びがある」。鶴見さんを語るのに
器量と遊びという二つの言葉は欠かせな
いように思う▼正義というものの危うさ
をしばしば語った。正義の人は純粹さを
追い求め、ついに暴虐に行きつく。不良
だった鶴見少年を叱る母はまさにそうい
う人だった。だから自分は「悪人でいた
い」。これも鶴見思想の一つの核心だろ
う▼借り物でない思考と裱かたじけなくを脱いだ言葉
があるから、鶴見さんを読むのは心地い
い。笑いを愛し、山上たつひこさんの人
気漫画『がきデカ』を評価した。己の欲
望に忠実な主人公「こまわり君」は、戦
争に行けと命令されても従うまい。鶴見
さんはそこに日本の希望を見た▼「ベ平
連」や「九条の会」を動かした行動の人
は、70歳で老いを自覚したという。80歳
で初詩集『もうろくの春』を出版。「も
うろくは一つの創造だ」と老境を楽しん
でいた。享年93▼「失敗したと思う時に
あともどりをする」。その大切さを説い
た姿勢を引き継ぎたい。勝利への展望が
失われても戦争をやめられなかった戦
前と、明白な「違憲」法案への批判に
耳を貸さない今の政権の姿が重なる。